

つたのは通信

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

学校の帰りに遺跡を見てきたよ！

— 染井遺跡 ワイズコーポレーション地区の発掘現場見学会 —

染井遺跡・ワイズコーポレーション地区では、1月10日木曜日の午後に遺跡見学会を開催しました。発掘調査は2012年12月から行っており、登下校の小中学生、お買い物の道すがらの方など、日頃から多くの方が現場スタッフに声をかけて下さっていました。地元の皆様のご期待に応えるため急遽準備を始め、事業主のご理解を得て年明け早々の開催にこぎつけました。

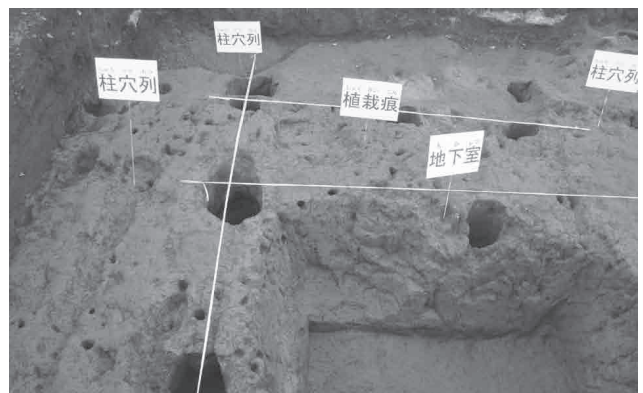
ワイズコーポレーション地区は津藩藤堂家の染井屋敷内にあたります。見学会では、調査の様子を間近で見ながら溝状遺構



出土した遺物に興味津々

や柱穴列などの藤堂家屋敷に関わる遺構を見学したり、出土した遺物を手に取ったりできるように工夫し、江戸時代の絵図を掲示したりしました。

見学会には130名を超える方が訪れました。前から調査の様子が気になっていたという近所の方や下校途中の小学生は、解説要員を質問攻めにしていました。この場所に江戸時代の遺跡があるということも多くの方に身近に感じていただけたようです。下校途中に立ち寄った小学生が帰宅してすぐお母さんに報告し、お母さんも終了間際の見学会に駆けつけるといった一幕もありました。
(成田涼子)

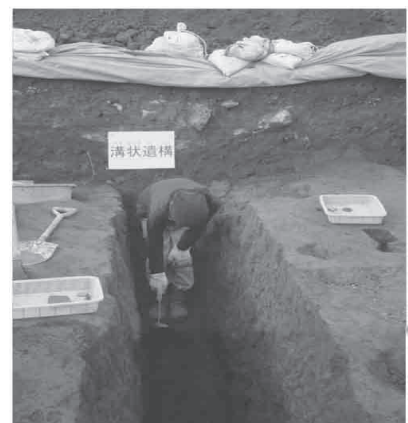


見学しやすいよう、手作りの説明板をたてました。

ワイズコーポレーション地区の調査概要

今回の調査では、江戸時代の遺構・遺物が発見されました。複数の柱穴から構成される堀・柵、地下室などの遺構や、屋敷内の生活状況や年代を把握するために欠かせない陶磁器などが見つかっています。

発掘調査区を東西に分断する溝状遺構は、最大の発見となりました。上幅は80cmと広くはありませんが、深さは約1mと比較的深く、急傾斜の壁を有していることが特徴です。隣接する地区では、同じ遺構が発見されており、総延長は10mを超し、東西方向にさらに延びていくものと考えられます。ただし、屋敷地内で実施されている他の発掘調査で、この溝状遺構に類似した遺構は発見されていません。この溝は、屋敷地内のある小区画のために設けられた境界施設と考えられますが、どのような土地利用であったのかは現段階で不明です。今後、整理作業を通し不明な点を一つずつ明らかにしていきたいと思えます。
(榎本邦人)



2 遺跡でただいま発掘中！



4月5日現在、北大塚遺跡と巣鴨遺跡にて発掘調査が進行中です。今号では速報として、それぞれの地点の最新情報を紹介します。

北大塚跡（新日鉄興和不動産分譲住宅地区）は、2013年2月25日から調査が始まりました。

3月中旬までの成果では、近代に構築された池状の遺構が発見されています。池址には、水を供給する管の他、水を排出する土管、池の脇に付設された甕など、一連の遺構が発見されています。池址は北方に下がる緩い傾斜がつき、蛇行しながら土管（写真の左下）に達しています。

今後は、近世の府中藩松平家下屋敷に関わる水路や井戸、さらには縄文時代遺構の検出が予想されます。

巣鴨遺跡（タカセ巣鴨店地区）は、巣鴨地蔵通り入

口を少し進んだ左手に位置し、多くの人が行き交う通りのすぐ脇で実施しています。

まず幕末～明治初頭の調査では、硬く締まった地面が検出され、通り表側に生活空間が展開していたものと解されます。かわらけが合せ口の状態で納められた埋納遺構や柱跡が通りのすぐ脇で発見されています。出土した遺物は、生活什器がほとんどであり、生業の特徴を見出すことはできていません。今後、江戸時代の各時期に形成された整地層（遺構確認面）を段階的に掘り下げていき、この土地がどのような利用状況で

あったのか、そして、江戸時代を通した歴史・変遷を解明するための資料が得られることに期待したいです。

2遺跡は5月初旬まで調査を行っています。今後の成果にご期待ください。

（榎本邦人・高木翼郎）



旧中山道のすぐ脇での調査

北大塚の殿様が好んだ焼塩の味

北大塚遺跡（新日本建設集合住宅地区）の発掘調査は、2013年1月に実施されました。今回の調査地点は、JR北大塚駅から直線距離で北東に300mの台地縁辺部に位置しています。今号で紹介した新日鉄興和不動産分譲住宅地区のすぐ近くです。

ここは文献資料によれば、常陸府中藩松平家下・抱屋敷であった範囲にあたります。今回は、比較的大型の採土坑やごみ穴、区画溝などといった遺構が発見されました。ごみ穴からは、当時の藩邸内で使用されたモノが多量に出土しています。中でもひととき目立つのは、比較的高级品である陶磁器、かわらけ、焼塩壺、食物残滓（食べかす）です。特に焼塩壺は「泉川麻玉」と刻印が押された焼塩壺のみが数多く出土しました。以前、本誌10号にて「染井の殿様が好んだ焼塩の味」と題して津藩藤堂家染井屋敷から出土した「サカイ 泉州磨生 御塩所」銘の焼塩壺に触れました。「北大塚の殿様」が好んだ焼塩は、染井のものとはまた違った味だったのでしょうか。



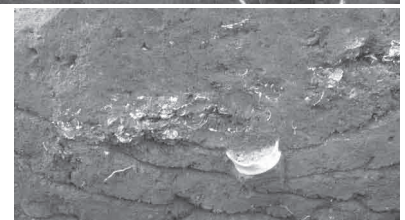
出土した「泉川麻玉」銘の焼塩壺

様々な器に盛られたお料理など、本地区から出土した遺物の様相からは、屋敷内で行なわれた何らかの儀式もしくは宴の様子が浮かび上がります。こうした席には泉川麻玉の焼塩が欠かせなかったのではないのでしょうか

（高木翼郎）



大型のごみ穴や区画溝の調査風景

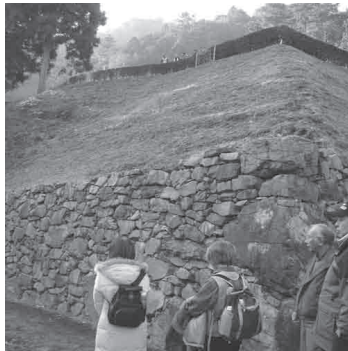


食物残滓の出土状況

踏査！近世を目前に落城した八王子城

2012年度「中世の城や館を歩いてみよう」第8回(1月12日)はバスツアーです。戦国武将北条氏照を城主とし、全国的にも著名な城である八王子城と滝山城を冬青空の下来訪しました。

八王子城では、城麓の御主殿を含む居館地区をみてまわりました。中世から近世への移行期に築かれた城郭を象徴する石垣は圧巻で、受講生は積み方の細部まで観察され、あるいは手に触れ当時に思いを馳せていたように見受けられました。今回は居館地区まででしたが、受講生の中には本丸(山頂)まで登りたかった方もおられました。受講生の学習意欲には頭が下がります。



(高木翼郎) (左)御主殿の土塁と石垣(右)昼食はバスツアーの楽しみの1つ

2月9日の講義をもって、本講座は幕を閉じました。今回で2回目である本講座は、2011年度よりも講座回数を倍増させ、訪れた城や館は9ヶ所にもなります。どれもが特徴のある城館で、中世の城館とはいかなるものであったのかを感じ取って頂けたのなら幸いです。

炎天下に長い道を歩いた大蔵館・菅谷館、険しい山道を歩いた先に美しい石垣を備える小倉城、どの回も大変でしたが、受講生の方々は、いつも笑顔で、楽しみながら受講されていたことが、とても印象に残っています。



2013年度も中世城館に訪れる講座を予定しています。受講生と共に、中世城館を学んでいきたいと思えます。(榎本邦人)

イベント報告

第13回中山道すがもまつり

3月28日、巣鴨信用金庫本店ホールにて、『第13回中山道すがもまつり』“おばあちゃんのまち・すがも むかし・いま・そして… ～地域の中の商店街の役割を考える～”と題したシンポジウムが開催され、発表及びパネラーの1人として参加しました。

「江戸幕末期の中山道と巣鴨一考古学の視点から巢



パネルディスカッションの様子

鴨を探る一」では、巣鴨遺跡で長年実施されてきた発掘調査の実績やその意義、調査研究によって判明してきた巣鴨周辺の江戸時代の街並みの様子を報告し、その上で、地域史研究や調査成果を地域にいかに戻せるのか、そして文化財を活かしたまちづくりは可能なのか、こうした点を説明・提案しました。

また、谷下氏(中央大学教授)による「巣鴨地蔵通り商店街の形成史」では、人口や売上、店舗の構成・推移についての詳細なデータの提示があり、大変興味深い報告をされています。

今回のシンポジウムでは、多くの方面からのご意見や反響がありましたが、当会が地域の方々や商店街・団体・企業とどのように関わっていけるのかを改めて考える機会ともなりました。(高木翼郎)

イベント報告

巣鴨まちかど遺跡ミュージアム終了

去る3月31日をもって、(公財)としま未来文化財団巣鴨地域文化創造館で開催した『中山道待夢を発掘する』展を終えました。

区内のみならず都外からも多くの方々に来場していただきありがとうございました。来場者からは、「大変面白い」「今後も発掘調査の展示をみにきたい」などの感想や、「もっと広い場所で展示してほしい」などのご意見も多くいただきました。当会では、今回の展示の反響を受け、さらに区内外の方々に豊島区内の各遺跡を知っていただける機会を今後も企画してまいります。(高木翼郎)



パンフレットはHPで閲覧可能

2012 年度遺跡講座が終了しました

遺跡講座の後期は豊島区で最も発見されることの多い江戸時代の遺跡について、連続4回の講座を開催しました。初回は中世末期から江戸時代のはじめにかけてのとしま地域について、2回目は中山道沿いに町家と武家地が広がる巣鴨遺跡について講義しました。3回目は、その巣鴨遺跡と染井遺跡を巡り歩き、4回目は染井遺跡の藤堂家下・抱屋敷をはじめとした豊島区内の武家地について講義しました。

今回の講座は、リピーターの方と初めての方と半々でしたが、講座の最後にとったアンケートでは、非常に好意的な評価を頂



き、9割ほどの方に来年度も受講したいとご回答頂きました。毎回教室の席が埋まるくらいに出席され、講義の後に個別で講師に質問されるなど、遺跡により関心を持って頂くことができたように感じます。遺跡巡りの回では、実際に発掘調査の見学を行いました。アンケートでも「印象に残った」といった感想が多く、実際の発掘を見ることの印象の強さを実感しました。

来年度以降も、より多くの方に遺跡を知って頂き、リピーターの方にはさらに深く知って頂けるように講座を企画してゆきたいと思えます。

(山崎吉弘)

遺跡巡りで熱心に聞き入る受講生

2013 年度 考古学講座開講のお知らせ

近年刊行された発掘調査報告書から、豊島区内の遺跡について、新たな調査成果を出土遺物や写真などを用いて調査員がわかりやすく解説します。また、毎回好評を博している、遺跡から出土した実物資料に触れて頂く場を設ける予定です。



考古学講座

発掘調査報告から見た豊島区の遺跡

- 【講座日】 第1回 5/11(土) 第2回 6/8(土)
第3回 7/13(土) 第4回 9/14(土) ※8月休講
- 【時間】 午後2時～4時(2時間)
- 【会場】 豊島区立勤労福祉会館 6階第7会議室
- 【定員】 25名 【締切】 4月18日(当日消印有効)
- 【費用】 3,000円
当会会員は当会より補助金が出ます。
- 【申込方法】 区立勤労福祉会館・区内の各地域文化創造館へ往復はがきを送付か持参。
詳細は「広報としま」3月11日号・「財団ニュースみらい」4月5月号に掲載されています。
- 【問合せ先】 豊島区立勤労福祉会館
TEL 03 - 3980 - 3131

巣鴨駅 110 周年記念イベント

巣鴨の今昔の資料展示と地元小学生による絵画展

JR池袋駅・大塚駅・巣鴨駅は今年開業110周年を迎え、これを記念するイベントが企画されています。巣鴨駅では巣鴨の街の変遷について、昔の写真や古地図等の資料展示が行われ、巣鴨遺跡の出土遺物の出展も予定されています。

同日開催の「駅からハイキング～としまの商店街たべ歩き～」とあわせて街歩きを楽しんでみてはいかがでしょうか。

- 【日時】 4月13日(土)、14日(日)
- 【場所】 JR巣鴨駅舎内展示スペース
- 【主催】 東日本旅客鉄道株式会社

終了致しました



“江戸の玩具と子どもの世界”



鮮やかな背景色で明るく目に付きやすい

このたび、東京地下鉄副都心線雑司が谷駅構内の遺跡解説板の展示替を実施しました。今回は、「江戸の玩具と子どもの世界」というタイトルのもと、遺跡から出土した玩具から当時の子どもの世界に迫ります。

江戸時代中頃になると、様々な玩具が「商品」として安価で大量に売り出されるようになりました。雑司が谷遺跡からは、江戸時代のままごと、飯事道具や泥面子、土人形など、土製の玩具が数多く出土しています。なかには、出土点数が200点を超える調査地点もあります。鬼子母神堂のような著名な寺社地の周辺は、人やモノの往来が特に活発だったため、玩具の普及は周辺の村落に比べ比較的早かったと考えられます。

これらの土製玩具は、子ども向けとはい

担当者による最終チェックの様子



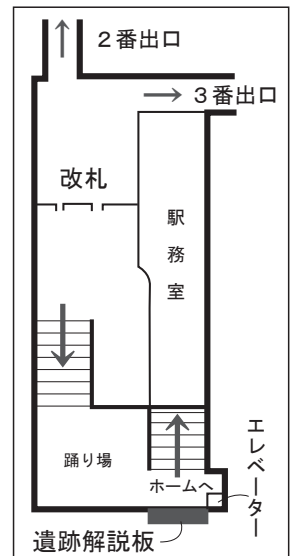
え、様々な工夫がほどこされていました。ままごとと道具や泥面子を間近で見ると、細かい部分まで精巧に作られていることがよくわかります。

また、飯事道具の器種のバリエーションは、実生活で使われている食器や調理器具に劣らず豊富で、泥面子も思わず収集したくなってしまうほど多種多様なモチーフがあります。さらに、寺社詣での土産物の土人形たちも、よく観察してみるととても愛嬌のある表情を浮かべています。

「商品」としての土製の玩具は、子どもたちを大いに魅了し、瞬く間に広まっていきました。

小さな出土玩具からは、商品経済の拡大という大きな流れの中に子どもの玩具が取り込まれていく様子を窺うことができます。

(中山なな)



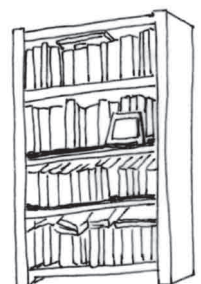
駅構内案内図

数多くの図書をご寄贈いただきました

昨年度（2011年10月～2012年9月）に、多くの機関や団体から図書をご寄贈いただきました。

以下に記して感謝申し上げます。（五十音順、敬称略）

江戸遺跡研究会、大手前学園大手前大学史学研究所、株式会社玉川文化財研究所、株式会社盤古堂、鎌倉市教育委員会、慶応義塾大学文学部民族学考古学研究室、公益財団法人かながわ考古学財団、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所、財団法人竹中大工道具館、財団法人東京都埋蔵文化財センター、下関市立考古博物館、墨田区教育委員会、大成エンジニアリング株式会社、鶴ヶ島遺跡調査会、鶴ヶ島市教育委員会、東京都教育委員会、同志社大学文化情報学会、豊田市教育委員会、奈良大学文学部文化財学科、鳩山町教育委員会、飯能市教育委員会、久山町教育委員会、ふじみ野市教育委員会、水戸市教育委員会、明治大学博物館



書籍紹介

灼熱の海と大地を駆け、歴史と人に向き合う



さくらい ゆ み お
桜井由躬雄 著『緑色の野帖 東南アジアの歴史を歩く』

タイトルにある「野帖」とは、主に野外での調査の際に見聞きしたことを書き付ける縦長の手帖のことです。フィールドワークに携わる人びとにとっては必携のものであり、フィールドワークそのものを象徴するアイテムであるとも言えます。著者の桜井由躬雄氏は東京大学で長らく教鞭を執られ、東南アジア史の研究、とくに現地調査に基づいた村落・地域社会の研究において多大な業績を遺されました。本書ではタイ、ベトナム、インドネシア、マレーシアといった東南アジア諸国に加え、中国の雲南、沖縄の八重山諸島も含めた19の地域における現地調査のなかでの体験が記されています。内容は学術的な事柄にとどまらず、調査の中で出会った様々な国の人びととの交流や、70年代末～90年代の激動の政治情勢のなかで変貌していく東南アジア社会が赤裸々に綴られています。各地域を語る上で必要な歴史的、文化的背景や専門的な用語、概念についてはいたるところで解説がなされ、たいへん読み応えのある一冊となっていますが、その記述は平明であり、読みにくさを感じさせないものです。

著者はある地域を研究し理解する上でのフィールドワークの意義、重要性をたびたび強調しています。フィールドワークとは文字通りフィールドから情報を得る行為のことですが、最も重要なのはその過程で自ら現地に赴き、人びとと交わり、その地の空気と水、景観を心と体に焼き付けることです。情報はそのままではばらばらの部品にすぎず、それらを一個の像として組み上げる為には、対象と直接に向かい合



緑色の野帖 東南アジア
の歴史を歩く
桜井由躬雄著
めこん
平成9年発行
¥2,800

う事で得た感性こそが不可欠であると著者は述べています。データを手元の野帖に書き付けていくだけではなく、その地で感じた全てを「心の野帖」に刻み付けていかねばならない、と云うべきでしょうか。本書を通じて、読者は著者が東南アジアに向けたまなざしと、現地で心身に刻んだものの一端を追体験することができます。その意味で本書は長年のフィールドワークにおける著者の「心の野帖」が形になったものといえるかもしれません。

本書は海外での地域研究を志す若者に向けて記されたものといえますが、その多彩な内容と軽妙な文章は、東南アジアを知る為のきっかけの書として全ての方々にお薦めできるものです。新しい本ではありませんが、日本を取り巻く国際環境のなかで東南アジア地域の重要性が増している昨今、改めて手にとる価値のある一冊といえます。

著者の桜井由躬雄先生は昨年12月、逝去なさいました。この場をお借りしまして、心よりご冥福をお祈りいたします。(渡辺慎也)

【編集後記】

🍷 1～3月は発掘調査やイベントが目白押しで、編集者としてはネタに困ることがないので助かりました。本誌創刊当時に比べると、多方面とのつながりが増えてきたなあと、しみじみと思いました。関係各位の努力や協力があったからこそです。(翼)

編集・発行



特定非営利活動法人
としま遺跡調査会

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨3-8-9 巣鴨複合施設201号室

Tel・Fax 03-3915-6962

E-mail tics389@a.toshima.ne.jp

ホームページアドレス：<http://www.toshima-iseki.org/>

「つたのは通信」の由来：蔦は大きな樹ではありませんが、生命力が非常に強い植物です。この蔦の葉が周囲の樹木や建物につたい茂るように、多くの人に遺跡の楽しさ、大切さを知ってもらいたいとの願いを込めて会報の名としました。また、染井遺跡を代表する大名屋敷である津藩藤堂家の家紋としても、馴染み深い植物です。

題字：湯澤和子

ロゴデザイン：石原幸

イラスト：菅沼晶子、千葉弘美